

古河市の春

古河公方ゆかりの公園が桃色に染まる



古河桃まつり



古河公方公園



旧飛田家住宅

[写真提供：古河市]

本格的な春の訪れを告げる古河公方公園の「桃まつり」6種類の花桃が咲き誇る

梅が春の訪れを告げる花であれば、本格的な春を感じさせる花は花桃だろう。鮮やかな赤やピンク、白い花をつける花桃。県内では古河公方公園(古河総合公園)が名所として知られている。

成長が早く、実は食料になると、江戸時代に古河藩主の土井利勝が桃を植えさせたことが「古河の桃」のはじまり。古河公方公園では3月16日から31日にかけて、恒例の「古河桃まつり」が開催される。

万葉集にも詠われるなど古くから栄え、室町時代後期からは足利成氏(古河公方)が本拠とした古河市。古河公方公園には、館跡や足利義氏墓所など、歴史を感じさせる場所が多い。

古河の桃まつりを訪ねたなら、近くにある歴史・文化遺産を巡りたい。JR古河駅西側には、古河城出城跡にある歴史博物館、雪の結晶の研究もした土井利位に仕え、大塩平八郎の乱の鎮圧でも活躍した蘭学者・鷹見泉石が住んだ武家屋敷、文学館、篆刻(てんこく)美術館、永井路子旧宅など見どころがたくさんある。

桜の名所では、古河駅近くの四季の径・雀神社、ネーブルパークなどが人気となっている。

古河市 春のコース

茨城県の西端に位置し、自然、歴史、文化が香る古河市。「古河桃まつり」に合わせて、古河の歴史や文化を訪ねよう。

A 古河歴史博物館



古河藩家老鷹見泉石が収集、研究した貴重な蘭学の資料などを展示。鷹見泉石の晩年の住まいも記念館として隣接。

B 篆刻美術館



日本唯一の篆刻専門の美術館。石蔵は国の登録有形文化財。事前予約により、篆刻体験が可能。すぐ近くには「古河街角美術館」や「永井路子旧宅」などがある。

C 古河文学館



大正ロマンの香り漂う洋館で、永井路子をはじめとする古河ゆかりの作家の作品などを展示。

E 道の駅「まくらがの里こが」

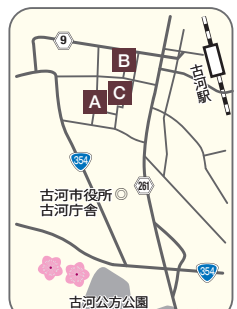


広い建物内には、地元の朝採れ新鮮野菜やお土産が並び、地産地消フードコートやベーカリーも大人気。

D ネーブルパーク



アスレチックや乗馬、バーベキューなどが楽しめるふれあい施設。四季折々の花が咲き、桜の季節は絶景。



名産名品

鮎甘露煮



江戸時代、古河が日光街道の宿場町としてにぎわい、渡良瀬川や利根川からとれる天然鮎の煮付けを旅人にもてなしたのが始まりと伝えられている。縁起物とされる頭付きは、贈答品としても人気。

篆刻美術館

マスコットキャラクター

「刻狸(こくり)」

篆刻美術館にあるタヌキの置物と、ハンコを押すときの「ボン」という擬音語からタヌキをモチーフにしている。篆刻の「刻(こく)」と「狸」を合わせて刻狸と命名。

古河市の概要

関東平野のほぼ中央に位置し、埼玉県や栃木県に隣接する。渡良瀬川と利根川が合流する場所でもある。2005年に旧古河市、総和町、三和町が合併して現在の形となった。

●お問い合わせ／古河市商工観光課 ☎0280(22)5111(代)

●企画・制作／読売茨城広告社 ☎029(244)5555

